



平成30年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年2月8日

上場会社名 株式会社博展
 コード番号 2173 URL <http://www.hakuten.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田口 徳久
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営本部長 (氏名) 田中 雅樹
 四半期報告書提出予定日 平成30年2月9日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 03-6278-0010

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	8,542	31.2	418		413		195	
29年3月期第3四半期	6,510	10.6	280		288		276	

(注) 包括利益 30年3月期第3四半期 182百万円 (%) 29年3月期第3四半期 295百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	50.80	49.22
29年3月期第3四半期	72.17	

(注) 平成29年3月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、1株当たり四半期純損失であるため、記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第3四半期	5,139	1,026	20.0	266.12
29年3月期	5,257	898	16.8	229.13

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 1,025百万円 29年3月期 883百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		0.00		14.00	14.00
30年3月期		0.00			
30年3月期(予想)				16.00	16.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

配当予想の修正については、本日(平成30年2月8日)公表いたしました「配当予想の修正(増配)及び配当方針の変更(中間配当の実施)に関するお知らせ」をご覧ください。

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,000	18.7	450		440		180		46.69

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正については、本日(平成30年2月8日)公表いたしました「通期業績予想の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ」をご覧ください。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期3Q	3,855,200 株	29年3月期	3,855,200 株
期末自己株式数	30年3月期3Q	株	29年3月期	株
期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期3Q	3,855,200 株	29年3月期3Q	3,827,824 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題	5
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10
3. 補足情報	11
生産、受注及び販売の状況	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

(単位:百万円)

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	増減額	増減率 (%)
売上高	6,510	8,542	2,032	31.2
売上総利益 (%)	1,497 (23.0)	2,228 (26.1)	731	48.8
営業利益又は 営業損失(△) (%)	△280 (△4.3)	418 (4.9)	698	—
経常利益又は 経常損失(△) (%)	△288 (△4.4)	413 (4.8)	701	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益又は 親会社株主に帰属する 四半期純損失(△) (%)	△276 (△4.2)	195 (2.3)	472	—

(注) 売上総利益、営業利益又は営業損失、経常利益又は経常損失及び親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失の下段に記載している数値は、それぞれ売上高に対する割合を示しております。

当社グループの主要領域である広告・イベント業界においては、経済産業省「特定サービス産業動態統計調査(2018年1月22日発表)」によると、広告業のうちSP・PR・催事企画における売上高は、4月から11月の累計実績が前年同期比95.6%と減少しており、企業収益は増加傾向にあるものの、プロモーション活動への積極的な投資には至っていない状況にあります。

このような環境の中、当社グループは、中期ビジョンである「Be a PARTNER of EXPERIENCE MARKETING(経験価値提供型マーケティング・パートナーになる)」の実現に向け、Experienceマーケティングサービスの提供を通じて、クライアントから永続的に選ばれるマーケティング・パートナーへと進化すべく、市場領域の拡大とサービスの拡充に重点を置きながら各事業を推進してまいりました。

- ① 展示会、イベント等のリアル領域におけるマーケティングサービスにおいて、直接取引を主体としたワンストップ・ソリューションの強みを活かし、市場領域の拡大・サービスの拡充を図る。
- ② デジタル・コンテンツ&マーケティング分野の強化に取り組むとともに、リアル領域とデジタル領域との融合により、新たなサービス価値を創造する。
- ③ 収益性の改善を重要な経営課題と位置づけ、プロジェクト毎の利益確保に努めると共に、ローコスト・オペレーションによるコスト抑制を図る。

この結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は、85億42百万円(前年同四半期比31.2%増)となりました。各商材カテゴリー別の売上高の状況は、次のとおりです。

(単位:百万円)

	前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	増減額	増減率 (%)
展示会出展	2,107	2,924	817	38.8
イベントプロモーション	964	1,219	254	26.4
商談会・プライベートショー	1,530	1,452	△77	△5.1
カンファレンス・セミナー	483	882	399	82.6
商環境	679	1,284	604	89.0
デジタル・コンテンツ&マーケティング	560	671	111	19.9
その他	184	107	△77	△41.8
売上高合計	6,510	8,542	2,032	31.2

売上高増加の要因としまして、展示会出展においては、前期下期に行った営業活動量の増加を目的とした体制強化が奏功し、隔年開催となる東京モーターショー2017等をはじめとする、大型案件の受注獲得に成功しました。イベントプロモーションにおいては、ターゲット業界の明確化や、収益性の高い大型案件の受注に向けた積極的な営業活動に注力したことで案件単価が増加しました。カンファレンス・セミナーにおいては、既存顧客からのリピート案件を確実に受注できたことに加え、新たにIT系の大型案件を獲得できました。商環境においては、協業パートナーとの連携強化を図ったことに加え、展示会等で取引のある既存顧客に対し商環境の提案活動を積極的に行い高単価案件の受注ができました。デジタル・コンテンツ&マーケティングにおいて、前期より継続している体制強化と商品開発が奏功し、受注高の増加に至りました。なお、商談会・プライベートショーは、前年同四半期比で減少しておりますが、収益性の観点から受注案件を選別したことによるものであり、商談会・プライベートショーの利益率は大幅に改善しております。

売上総利益は、22億28百万円(前年同四半期比48.8%増)、売上総利益率が26.1%(前年同四半期は23.0%)となりました。これは、前述の要因により売上高が増加したことに加え、採算性を重視した業務オペレーションを実行したこと等により、プロジェクト毎の利益確保を実現したことによるものです。

販売費及び一般管理費は、18億10百万円(前年同四半期比1.9%増)、販売費及び一般管理費率が21.2%(前年同四半期は27.3%)となりました。これは、前期にあった子会社株式取得に関する一時的な費用が当期において減少したこと、売上高の増加に対し、販売費及び一般管理費を前年並みの水準に維持すべく、コスト管理の徹底に取り組んだこと等によりです。

この結果、営業利益は4億18百万円(前年同四半期は営業損失2億80百万円)、経常利益は4億13百万円(前年同四半期は経常損失2億88百万円)となりました。

また、当社の連結子会社であるタケロボ株式会社(以下「タケロボ」といいます。)において進めておりますロボティクス事業について、労働人口減少に向けてAI技術の活用ニーズが高まる中、AI技術を搭載した新製品の投入や、AI搭載ロボットを活用した新サービスの実証実験に参画する等、新たなマーケットを開拓すべく積極的な事業展開を図ってまいりました。しかしながら、本格導入に向けたテストマーケティングには想定以上の時間とコストが必要であり、ロボティクス事業の収益化には当初計画よりも時間を要する事が明らかになりました。

このような状況から、当社は、タケロボの収益計画の遅れに伴う影響を踏まえ、現時点におけるタケロボの株式取得時の投資価値を会計ルールに則り厳密に検討した結果、関係会社株式評価損1億59百万円を特別損失として計上することといたしました。なお、当該関係会社株式評価損は、連結決算上消去されるため、連結決算業績に与える影響はございません。

また、当社の個別決算において上記の関係会社評価損を計上することに伴い、連結決算において、連結上のみで識別されている無形固定資産及びのれんについて、減損損失31百万円、のれん償却額31百万円を特別損失に計上すると共に、タケロボの個別決算において、ソフトウェア及び工具器具備品等の固定資産について、減損損失27百万円を特別損失に計上することといたしました。

この結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億95百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失2億76百万円)となりました。

当第3四半期累計期間における報告セグメントの業績は、次のとおりです。

a. リアルエクスペリエンス&コミュニケーション事業※1

当第3四半期連結累計期間におけるリアルエクスペリエンス&コミュニケーション事業の売上高は、79億62百万円(前年同期比31.1%増)、セグメント利益は5億1百万円(前年同期はセグメント損失1億9百万円)となりました。

これは、前述に記載のとおり、売上高においては、商材別の事業戦略が奏功したこと、セグメント利益においては、プロジェクト毎の利益確保及びコスト管理の徹底による改善効果によるものです。

b. デジタルエクスペリエンス&コミュニケーション事業※2

当第3四半期連結累計期間におけるデジタルエクスペリエンス&コミュニケーション事業の売上高は、6億87百万円(前年同期比25.9%増)、セグメント損失は27百万円(前年同期はセグメント損失75百万円)となりました。

これは、デジタル領域におけるグループ戦略の実現に向けて体制変更の実施と、顧客ニーズにマッチした商品開発を進めたことで先行投資が増加した一方、プロジェクト単位の利益管理の徹底により、収益性の改善が図れたことにより、前年同四半期比でセグメント損失が減少しました。

※1: 展示会・イベント等、人と人が直接出会う“場”・“空間”において、様々な体験価値を通じて提供される製品・サービスの宣伝・販売活動を「Experience マーケティング」と位置付け、“コミュニケーション”に関わるあらゆる「表現」「手段」「環境」を最適化し“デザイン”することで、サービスを展開しております。

※2: インターネットを活用したビジネスモデルの策定から戦略的なWebサイト構築やアプリケーション制作をはじめとし、ビジネス向けアプリ制作・配信・管理プラットフォームやAI・コグニティブ領域、ロボティクスなど、最先端のデジタル・テクノロジーを集積し“デザイン”することでサービスを提供しています。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における財政状態は、資産合計51億39百万円(前連結会計年度末比2.2%減)、負債合計41億12百万円(前連結会計年度末比5.6%減)、純資産合計10億26百万円(前連結会計年度末比14.3%増)となりました。

(流動資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産の残高は39億19百万円(前連結会計年度末比1百万円減少)となりました。これは、現金及び預金が2億34百万円減少したこと、受取手形及び売掛金が1億30百万円増加したことが主な要因となっております。

(固定資産)

当第3四半期連結会計期間末における固定資産の残高は12億19百万円(前連結会計年度末比1億16百万円減少)となりました。これは、のれんの償却により前連結会計年度比80百万円減少したことが主な要因となっております。

(流動負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債の残高は29億42百万円(前連結会計年度末比33百万円減少)となりました。これは、買掛金が1億67百万円減少したこと、未払法人税等が1億46百万円増加したことが主な要因となっております。

(固定負債)

当第3四半期連結会計期間末における固定負債の残高は11億70百万円(前連結会計年度末比2億13百万円減少)となりました。これは、約定返済が新規借入を上回ったことにより、長期借入金が1億69百万円減少したことが主な要因となっております。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産の残高は10億26百万円(前連結会計年度末比1億28百万円増加)となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益を計上したこと等により利益剰余金が1億41百万円増加したことが主な要因となっております。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

①連結業績予想について

連結業績予想につきましては、本日公表いたしました「通期業績予想の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ」をご参照ください。

②配当予想について

配当予想につきましては、本日公表いたしました「配当予想の修正(増配)及び配当方針の変更(中間配当の実施)に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,398,517	1,163,959
受取手形及び売掛金	2,158,303	2,288,305
製品	4,486	10,230
仕掛品	139,541	306,806
原材料及び貯蔵品	2,087	5,865
その他	221,052	148,264
貸倒引当金	△2,405	△3,452
流動資産合計	3,921,583	3,919,978
固定資産		
有形固定資産	230,381	220,093
無形固定資産		
のれん	257,245	176,627
その他	637,476	617,789
無形固定資産合計	894,721	794,417
投資その他の資産		
その他	212,269	206,378
貸倒引当金	△1,385	△1,238
投資その他の資産合計	210,884	205,139
固定資産合計	1,335,987	1,219,650
資産合計	5,257,571	5,139,629
負債の部		
流動負債		
買掛金	924,166	756,724
短期借入金	500,000	230,000
1年内返済予定の長期借入金	1,123,133	1,126,901
未払法人税等	490	146,788
賞与引当金	135,347	84,780
工事補償引当金	1,900	103
その他	290,644	597,270
流動負債合計	2,975,682	2,942,568
固定負債		
長期借入金	1,244,702	1,075,203
その他	138,490	94,919
固定負債合計	1,383,193	1,170,123
負債合計	4,358,875	4,112,692
純資産の部		
株主資本		
資本金	174,449	174,449
資本剰余金	289,331	289,331
利益剰余金	414,276	556,166
株主資本合計	878,057	1,019,947
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,279	6,009
その他の包括利益累計額合計	5,279	6,009
新株予約権	1,033	980
非支配株主持分	14,325	-
純資産合計	898,695	1,026,937
負債純資産合計	5,257,571	5,139,629

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	6,510,081	8,542,690
売上原価	5,012,915	6,314,214
売上総利益	1,497,166	2,228,475
販売費及び一般管理費	1,777,273	1,810,247
営業利益又は営業損失(△)	△280,106	418,228
営業外収益		
受取利息	10	3
受取配当金	150	185
貸倒引当金戻入額	2,013	-
物品売却益	172	3,979
雑収入	1,593	2,819
営業外収益合計	3,940	6,987
営業外費用		
支払利息	10,587	10,810
雑損失	1,714	929
営業外費用合計	12,302	11,740
経常利益又は経常損失(△)	△288,467	413,475
特別損失		
固定資産除却損	4,829	114
のれん償却額	53,216	31,316
減損損失	-	59,538
特別損失合計	58,046	90,968
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△346,513	322,506
法人税、住民税及び事業税	5,594	138,680
法人税等調整額	△55,805	2,288
法人税等合計	△50,211	140,968
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△296,302	181,537
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△20,029	△14,325
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△276,273	195,862

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△296,302	181,537
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	443	729
その他の包括利益合計	443	729
四半期包括利益	△295,859	182,267
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△275,829	196,592
非支配株主に係る四半期包括利益	△20,029	△14,325

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	リアルエクス ペリエンス&コ ミュニケーシ ョン	デジタルエクス ペリエンス&コ ミュニケーシ ョン	計		
売上高					
外部顧客への売上高	6,070,834	439,247	6,510,081	-	6,510,081
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,750	106,515	108,265	△108,265	-
計	6,072,584	545,762	6,618,347	△108,265	6,510,081
セグメント損失(△)	△109,616	△75,689	△185,305	△94,800	△280,106

(注) 1. セグメント損失の調整額△94,800千円は、のれんの償却額△62,605千円、セグメント間取引△32,195千円であります。

2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

デジタルエクスペリエンス&コミュニケーション事業セグメントにおいて、子会社への投資に係るのれんを償却(特別損失)したことにより、のれんの金額が53,216千円減少しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	リアルエクス ペリエンス&コ ミュニケーシ ョン	デジタルエクス ペリエンス&コ ミュニケーシ ョン	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,953,178	589,511	8,542,690	-	8,542,690
セグメント間の内部売上高又は振替高	9,631	97,808	107,440	△107,440	-
計	7,962,810	687,320	8,650,130	△107,440	8,542,690
セグメント利益又は損失(△)	501,355	△27,407	473,948	△55,720	418,228

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△55,720千円は、のれんの償却額△49,301千円、セグメント間取引△6,419千円であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

デジタルエクスペリエンス&コミュニケーション事業セグメントにおいて、技術に基づく無形資産について31,775千円の減損損失を計上しております。また、将来の収益性がないと判断したソフトウェア等について、回収可能額がないものと評価し、27,763千円の減損損失を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

デジタルエクスペリエンス&コミュニケーション事業セグメントにおいて、子会社への投資に係るのれんを償却(特別損失)したことにより、のれんの金額が31,316千円減少しております。

3. 補足情報

生産、受注及び販売の状況

① 生産実績

当社グループは、企業や団体の広告活動・販促活動に伴う、情報伝達を目的とした各種イベント及びマーケティングツールの企画・制作・運営を主たる業務として行っており、生産実績を定義することが困難であるため、生産実績の記載はしていません。

② 受注状況

前第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

前第3四半期連結累計期間の受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)			
	受注高(千円)	前年同四半期比 (%)	受注残高(千円)	前年同四半期比 (%)
リアルエクスペリエンス& コミュニケーション事業	6,180,285	114.6	2,202,821	139.9
デジタルエクスペリエンス& コミュニケーション事業	576,515	108.5	300,577	120.4
合計	6,756,800	114.0	2,503,399	137.3

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

当第3四半期連結累計期間の受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)			
	受注高(千円)	前年同四半期比 (%)	受注残高(千円)	前年同四半期比 (%)
リアルエクスペリエンス& コミュニケーション事業	8,183,438	132.4	2,521,135	114.5
デジタルエクスペリエンス& コミュニケーション事業	488,071	84.7	227,678	75.7
合計	8,671,509	128.3	2,748,814	109.8

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

③ 販売実績

前第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

前第3四半期連結累計期間の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	前年同四半期比 (%)
リアルエクスペリエンス& コミュニケーション事業(千円)	6,070,834	110.4
デジタルエクスペリエンス& コミュニケーション事業(千円)	439,247	114.3
合計(千円)	6,510,081	110.6

- (注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

当第3四半期連結累計期間の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)	前年同四半期比 (%)
リアルエクスペリエンス& コミュニケーション事業(千円)	7,953,178	131.0
デジタルエクスペリエンス& コミュニケーション事業(千円)	589,511	134.2
合計(千円)	8,542,690	131.2

- (注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。